

日本の参加実績

回	年	開催地	参加者数(国数)	日本人参加者	参加者所属
9	2013	英国オックスフォード	?	4?	?
8	2012	英国オックスフォード	79(29)	7	北電、関電、日本NUS、HGE、 JNES(2)、東工大
7	2011	英国オックスフォード	78(34)	3	関電、JAEA、HGE
6	2010	英国オックスフォード	99(30)	4	原燃、電中研、JAEA、HGE
5	2009	英国オックスフォード	101(37)	5	東京電力、中部電力、東大、 HGE、三菱重工
4	2008	カナダ・オタワ	100(36)	1	三菱重工
3	2007	韓国大田	102(35)	2	東工大、GNF
2	2006	ストックホルム	89(34)	1	東工大
1	2005	米国アイダホ	77(34)	2	JAEA、東工大

実績が示すように、WNU 創設以降 SI には東京工業大学が精力的に参加を奨励しその存在を国内に示すパイオニア的役割を果たしてきた。2009年以降、参加者数が増えたのは原産協会の周知活動、支援活動が功を奏している。